

居住支援セミナー開催結果報告書

特定非営利活動法人
WAC 清水さわやかサービス
居住支援法人総括責任者
鈴木 久義

みだしの件については次のとおりであるので報告します。

記

1 開催日時

令和3年11月9日(火)
午後1時30分から午後4時00分

2 開催場所

静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号
静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」1001-2 会議室

3 主催

NPO法人 WAC 清水さわやかサービス (静岡県指定第2号)

4 共催

社会福祉法人 天竜厚生会 (静岡県指定第3号)
NPO法人 静岡生活振興会 (静岡県指定第4号)
株式会社 ふじのくにコンシェルジュ (静岡県指定第5号)

5 参加者

74人 (80人募集)

6 参加者内訳

男性 41名 女性 33名
行政職員 15名 不動産業者等 5名
福祉系 (生活支援コーディネーター含む) 38名
医療関係者 2名 一般 2名 居住支援法人 10名

7 来賓

深澤陽一衆議院議員 盛月寿美県議会議員 林芳久仁県議会議員

8 講義内容

(1) 居住支援法人 WAC清水さわやかサービス（静岡県指定第2号）

居住支援法人総括責任者 鈴木 久義

ア 活動状況について

- ・地域包括ケアシステムとSDGsと居住支援
- ・居住支援法人の活動について
- ・様々な立場における問題点
- ・実際の活動例
- ・お役立ち情報

最初にSDGsと居住支援法人の関係、今さらではあるが地域包括ケアシステムが居住支援法人なくして完成しないということを強調した。

次に居住支援法人の活動について数字を挙げて支援が必要な人が多いということを伝えた。その後、様々な立場における問題点を羅列し解消するのに必要なことを説明した。

終盤はケース別の対応について今までの実践例を挙げ紹介した。

最後は利用者様からのお手紙を紹介し、居住支援活動に大切なことは

「実行」「連携」「行政が本気を出すこと」と強調して

「困った時はお互いさま・・・」の気持ちを忘れずにと会場に投げかけた。

(2) 講演「残置物の処理等に関するモデル契約条項の策定について」

講師：国土交通省 住宅局 参事官「(マンション・賃貸住宅担当) 付
調整係長 伊倉 孝浩 氏

今回国交省が策定した上記タイトルについて策定した国交省職員が説明を行った。

9 後援

静岡県居住支援協議会 公益社団法人静岡県宅地建物取引業協会

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 社会福祉法人静岡市社会福祉協議会

認定NPO法人市民福祉団体全国協議会

NHK静岡放送局 朝日新聞静岡総局 中日新聞東海本社 静岡新聞社・静岡放送

静岡第一テレビ 静岡朝日テレビ テレビ静岡（順不同）

10 結果

コロナの関係で何人参加するかと不安でしたが、当日はご来賓を始め各市町の行政職員や社協職員、不動産業者、地域包括支援センター職員、生活支援コーディネーターなど**74名**の人が集まりほぼ会場は満員となった。

開会前に熱海市で発生した大規模土砂災害で犠牲になった方々に対し全員で黙とうを捧げた。

本セミナーにおいて居住支援法人の活動を始めて知ったという方は、その活動に驚き行政の不甲斐なさに失望していました。

ご来賓の衆議院議員からは国政において静岡県内の居住支援法人の活動を伝え今後の支援策について検討する旨、県議会議員からは次回の県議会においてこの問題を取り上げていくので話し合いをしたい旨の申し出があり今後どのように進展するかはわからないが行政が積極的に関与する土壌作りは出来たのではないかと思う。

Webでのセミナーも一時検討したが熱が伝わらないことからやっても意味がないとの判断に至り、会場参加型にしたが参加者からは「来て良かった。」「他の市町でも講演して欲しい。」との申し出があったことから本セミナーの開催は成功であった。



来賓挨拶



会場の様子



居住支援活動の発表



国交省職員による講義